

# 滋賀県精神保健福祉協会だより

第22号  
SHIGA  
精神保健福祉協会

2004.8.31

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会  
〒525- 草津市笠山八丁目4番25号  
0072 滋賀県立精神保健総合センター一気付  
TEL/FAX 077(567) 5250  
http://www.mental-shiga.com  
E-mail smental@ex.biwa.ne.jp

「関心をもつこと、知ることは  
病氣克服の第一歩」



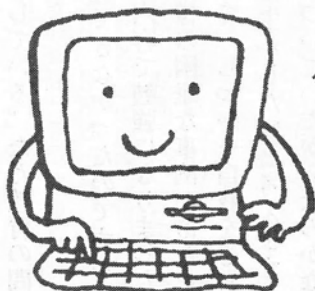
滋賀県精神保健福祉協会  
会長  
大川匡子

二〇〇二年八月に開催された日本精神神経学会横浜大会で「精神分裂病」が「統合失調症」と呼ばれることになりました。新しい病名の浸透度は予想以上に高いと報告されており、これは新しい呼称が以前より好ましいことを示していると思います。医療従事者側からも病気の説明がしやすくなったと感じています。また最近、新聞やテレビでも病気を多くの一般の方々に理解してもらおうと、統合失調症が取り上げられる機会が増えてきているように思います。関心を持つこと、知ることは社会のなかで病気が認められることにつながるため、病気を持つ人にとっては改善のための第一歩なのです。昨年一年間の協会活動を振り返ってみますと、普及啓発活動として、「こころの健康づくりを考える県民のつど

い二〇〇四「自殺を防ぐ」と題し、近年社会問題となっている自殺問題についての講演会とシンポジウムを開催しました。さらに恒例となっている「精神保健福祉ボランティア養成講座」も県下4圏域で実施しました。団体育成事業としては、「障害者のつどい」を開催し、多くの会員と県民の方々が参加し、講演会を通して「地域で支えあつて生きること」を考え、意見交換する時間を過ごしました。また、研修・調査活動として「地域生活協力員交流会」を開催し、県外の方々の意見交換、交流の場も持ちました。そして、何よりも広く県民の皆さんに知っていただき、活用していただきたいのが、昨年度開設したホームページです。協会の活動報告だけでなく、自助グループ・家族会、各種学会・協会、病院・保健所等にリンクすることができるようになっていますので、誰もがさまざまな病気の説明や必要な情報を得られます。たとえば、自助グループ・家族会にリンクして、患者さん相互またはご家族同士がコミュニケーションを図って輪を広げていただく場と

して活用していただくこともできます。また、日頃こころの病気とはあまりかわりのない方々もホームページを通して協会の活動に関心を持っていただければ、ボランティアとして携わってみよう、など身近な問題としてとらえていただけるきっかけになるかもしれません。この一年間ですでに多くの方々がホームページにアクセスしていただいております。関心の高さがうかがえます。今年度も協会に関連して下さっている各団体の方に協力していただきながら、さらに充実・発展した活動が繰り広げられることを願っております。

～滋賀県精神保健福祉協会ホームページアドレス～  
<http://www.mental-shiga.com>



## 第八回總會報告

去る六月二〇日(日)午後一時から、草津市立市民交流プラザ(JR南草津駅前)において第八回總會が開催されました。(出席者数一六六、内代理議決委任者一二五)

大川会長の挨拶に引き続き、議長に世一市郎氏(世一クリニック院長)が選出され、平成十五年度の事業及び会計報告と、平成十六年度事業方針・事業計画・予算について熱心な討議が行われました。見直しが行われた点では、事業の実行委員への旅費について、今年度からは実費に近い額が支払われることになったことと、会則第八条の改正により、会員が会費を三年以上納入しないときは退会したものとすること、賛成多数により承認され、平成十六年度の事業がスタートしました。

### 事務局からのお願い

毎年、一般会員様には、総会案内とともに出席報告書・委任状用紙をお送りして提出をお願いしておりますが、約半数の会員様からは何らご連絡いただけないのが実状です。もし委任状を含む出席者数が過半数に達しない場合は總會が開催できません。総会ご欠席の場合は、必ず委任状の提出をお願いいたします。(FAX・電話・メールでも受け付けております。)

## 特別講演「心の発達と精神衛生」

…奈良女子大学 友久久雄教授の講演を聴いて…



いつもなら拒わってしまう原稿の依頼を今回は素直に受けてしまいました。さらに普段なら眠気を感じるであろうが話に引き込まれるよう聞き入っていました。何故でしょうか。

心の発達を不登校である子供の心理状態に例をあげカウンセリングの枠組みの中でとらえ、「自我」の形成に焦点をあてた内容であったと思います。

つくられた自分を表現することに対して善し悪しに評価をし方向づけることのできる教育や武器(診療行為全般)

をもっている医師とは異なり何の手段のないカウンセリングは、何故できないのかに目を向ける。できないことに口をだしたり手を差し伸べたりせず、さらにいやなことはしなくてもよい。いくらできるように環境を周りで整えても無理だからである。何故できないのかを自分自身に「気づき」をもたせることが大切である。「気づき」をもてるようになれば、自我が芽生えてくる。

「自我(エゴ)」とは、自分の行動を自分で決めることができる心理的表現である。自我が弱いと学校へ行かなければと思っても興味なく行けず閉じこもってしまう、人と接することも面倒くさくうまくできない、失敗もやり直せない(失敗が恐くてできない)、講演も眠たくて聞けないなど案な方向へながれてしまい「未自我(イド)」の状態にあるという。逆に、本来の行動の理想の状態を「超自我(スーパーエゴ)」という。たとえ自我が責められても、自分自身の自我の形成ができており超自我としっかり結びついておればイドから防衛でき自我を守れるということである。俗に学校でよい子と言われても自我が弱い例もたくさんある。

また、学校が面白くないので行かずゲームセンターが面白いという子は、自我はしっかりしている。ただ教育の問題である。

うまく表現できなかったのですが、大変興味深い内容で勉強になりました。現在、多種多様の困難な事例があとを耐えませんが、しっかり自我をもち今後の活動に生かしたいと考えます。超自我と結びついていたらかなのかなと今、充実感を味わっています。(滋賀県医療社会事業協会 中村能)

### 滋賀県精神神経科診療所協会主催講演会

### 「高機能広汎性発達障害の最新の知見」

…十一元三京都大学医学部保健学科教授の講演を聴いて…

平成十六年六月二十九日、滋賀県精神神経科診療所協会主催講演会があり、十一元三京都大学医学部保健学科教授が「高機能広汎性発達障害の最新の知見」と題して講演されました。会場のホテルニューサイチアネックスには精神科関係者だけでなく、小児科関係、教育関係、福祉関係など多数の参加がありました。

LDやADHDやアスペルガー障害など、軽度発達障害としてひとくくりになされがちですが、まずそれぞれの基



本障害の相違を整理していただきました。アスペルガー障害の場合は前頭葉の高次連合野より

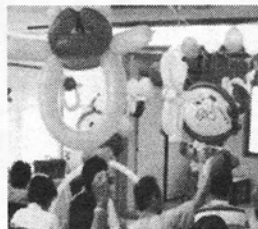
も扁桃体―辺縁系の障害が想定され、対人コミュニケーションの障害となつて表れるとのことでした。その基本障害から表れてくる、それぞれの認知特性に沿った個別の関わりが基本となるとの明快なお話でした。

ディスカッションでは小児科の先生から、早期診断へのプレッシャーを感じるという意見や、学校現場での対応の困難性が提起されました。表に現れてくるのは児童の行動や精神的問題なので、それを診察する児童精神科医の絶対的な不足の問題があるようです。しかしこのような、多領域に関わる問題に対しては、それぞれの職種が蛸壺化せずに積極的に連携をはかることが重要との印象を強く受けました。

(NPO法人サタデーピア 藤井美悠紀)



笑って  
メンタルヘルス滋賀  
8月研究会  
ケアリングクラウン  
トンちゃん一座とともに



笑ってメンタルヘルス滋賀支部では、八月七日に「ケアリングクラウントンちゃん一座」をお迎えして、研究会を開催しました。約30名の参加者がありました。大小様々な風船によって飾り付けられた室内。組み合わせにより、ドラえもんやくまのプーさんなどに変身するバルーンアート。また、外国製で土に還るといふ珍しい風船で、ストレッチや風船キヤッチをしたり、風船楽器を奏でたりしました。風船一つでこんなにも違った遊び方があり、楽しくなれるということを教えてもらいました。そして、みんなのでフェイスペインティングに挑戦しました。腕にスイカや動物の絵を描く方や、クラウンの印である赤い鼻をつけ見事にビエロに変身した方もいました。

座長の石井登氏は「私たちの活動は、パフォーマンス・大道芸をして拍手をもらうものではありません。私たちは芸のできないビエロ。たくさんのお愛をもって、皆さんと握手、ハグをすることで温かみを分かち合うのが主な活動です。ケアリングクラウンで「コミュニケーション」「楽しさ」「笑顔」「愛」をお互い感じあう。そして、どんな人でもエネルギーを持っているのだと伝えるサポーターなのです」と自分たちの活動について語ってくれました。

笑いの絶えることのない、「コミュニケーション」にあふれた楽しい時を過ごすことができました。(笑ってメンタルヘルス滋賀 服部健太郎)

## 睡眠学講座の紹介

二〇〇四年四月一日より、滋賀医科大学に開設された睡眠学講座は、睡眠医療と関連領域の研究、教育を目的とした日本での初めての講座です。産学協同プログラムの一環として、精神科の大川匡子教授が中心となって進めてきたもので、国立大学における教育研究の豊富化、活発化を図ることを目的として、民間からの寄附を活用して設立運営する寄附講座として開設されました。

一九九八年に厚生労働省が実施した疫学調査で、わが国では五人に一人が睡眠にかかわる問題を抱えていることが明らかになっていきます。欧米先進諸国と同様に交代勤務や深夜勤務の増加によって、勤労者の睡眠不足と睡眠不足による事故の増加が指摘されています。また、新幹線居眠り事故などで注目されるようになった睡眠呼吸障害に対する適切な診断・治療も重要な課題です。

睡眠学は、ヒトはなぜ眠るのかという「睡眠科学」、なぜ眠れないのか、また昼間眠くて困るのは病気なのかという「睡眠医学」、そして睡眠障害による経済的損失や学校・職場における学業成績および生産性など、睡眠に関する社会的影響を扱う「睡眠社会学」という三つの柱からなる学問領域です。

睡眠学講座では、睡眠医学として国民の健康を守るだけでなく、睡眠障害の原因の研究と治療法の開発に取り組み、睡眠社会学として社会問題における睡眠の関わりを明らかにして、睡眠プランの作成や睡眠衛生の是正を行うほか、睡眠科学として睡眠の発現機構の解明がなされ、

睡眠の生体に対する役割を明らかにすることを目指しています。

講座開設により、これまで不眠なら精神科、いびきなら耳鼻咽喉科と症状によって受診科が異なっていました。窓口が一つになってより受診しやすくなり、また診療科を超えた適切な診断と治療が行えるように努力して参ります。

さらに、耳鼻咽喉科、精神科のほか、神経内科、呼吸器科、循環器科、代謝科、小児科、歯科口腔外科、放射線科など多岐にわたる診療科の協力を得て、さらには他大学や他の医療機関、地域との連携を行いながら診断・治療・研究を進めたいと考えています。

今後の活動プランとしては、予防医学と臨床を合わせた睡眠障害センターを睡眠学の拠点として、地域病院や保健施設との連携ネットワーク作りを進めていくほか、睡眠外来のない病院や一般開業医に対しても知識啓発が必要な場合には、教育的援助を行っていく予定です。

また睡眠研究については、「まず睡眠呼吸障害、リズム障害、薬物・非薬物両面からの不眠症の治療法の確立、高齢者の睡眠障害などに取り組んでいく予定です。

さらに治療・研究だけでなく、医学部学生、看護学生、医師、看護師、臨床検査技師などに対する教育研修を行うほか、地域活動として一般医師への教育はもちろんです。大学教養部(教育学部、体育学部など)で睡眠に関する集中講義を行ったり、一般市民を対象にした市民講座、社会人大学等での教育活動などを予定しております。

どうぞよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(宮崎総一郎)

# 手帳について

## ■取得し福祉制度の向上を

滋賀県の精神障害者保健福祉手帳(障害者手帳)取得者数は、平成十五年(三月末で、二二七七人になりました。十四年度末一七八四人)一年間に三九三人増えました。滋賀県の人口約一三七〇〇人のうち推定一%が精神障害者といわれていますが、一三七〇〇人のうち手帳保持者は約十六%に過ぎません。身体・知的障害者の手帳保持者が、ほぼ一〇〇%に比べますと、格段に低いです。

障害者手帳を取得しない理由を調べてみますと、

①手帳のメリットが低い

②取得時の診断書などの費用が出せないなどです。「高い費用をかけて、手帳を取得しても、あんまりメリットも無いしなあ」「手帳を持つていっていると就労に差し支えるしなあ」「自分は、障害者でもないのに手帳はいらない」などの声が聞こえてきます。

もっとも経済的に不利といわれる精神障害者にとって、将来の不安は、病気の症状改善をはばみ、社会復帰に至る過程を困難にし、復帰をいたずらに遅らせているように思われます。

手帳取得数が増えず、したがってメリットも進展しない膠着した現状を開するために、ある県では、手帳取得する際の費用を補助しています。

障害者の権利を主張し、福祉の向上進展を確実にするために、いま一度、手帳の取得を推し進めていくことが、捨て置かれたような精神保健福祉の現状を、進めていく大きな力となる筈です。

(湖の子会 井上カズ子)



## 伝言板

### 「こころの会」 例会のご案内

日時…平成16年11月14日(日) 13:30~15:30  
 場所…県立男女共同参画センター 研修室B  
 内容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等  
 問合せ…「こころの会」蒲生郡日野町木津192  
 TEL/FAX : 0748-52-2918

(この会は患者会です)

### 精神障害者ホームヘルパー養成講習会

講習期間…平成16年10月16日(土)~11月13日(土)  
 定員…20名  
 受講料…15,000円(別途テキスト代、保険料など5,000円)  
 問合せ…「NPO法人サタデーピア」  
 〒520-0043 彦根市小泉町596-1-202  
 TEL/FAX : 0749-23-6679

### 笑ってメンタルヘルス滋賀・第3回総会と集い

日時…平成16年10月31日(日) 午後2時から  
 場所…南彦根クリニックデイケア室  
 参加費…300円  
 第一部…パフォーマンス(漫才とコントなど)  
 第二部…マジック(ジョニー久保田のマジックショーを楽しむと同時に、簡単なマジックを覚えて楽しむ。)  
 問合せ…「南彦根クリニック」 TEL:0749-24-7808

### 編集後記

◆障害者福祉施策を知的・身体・精神の三障害共通とし、介護保険と統合していくという議論は、介護の社会化、市町村の取り組みの義務化、他障害との格差是正など、精神保健福祉の領域にとってはメリットが大きいように見えます。しかしそもそも財政主導の流れなので安易には乗れない気がします。

◆それ以外にも他障害と比べて精神障害福祉施策の立ち後は顕著です。滋賀県の平成15年度の数値を比較してみると、ホームヘルプサービス対象者は精神100人に対して、知的は1580人。グループホーム等は精神16カ所に対して、知的は85カ所。ショートステイは精神4床に対して、知的・身体は74床。福祉就労の場は精神19カ所に対して、知的116カ所となっています。

◆ところで滋賀県は人口万対精神科病床数が全国で一番少ない県です。全国平均が28.0に対して滋賀県は17.6です。脱施設化、コミュニティケアが全国一進んでいるということでしょうか。一方、精神障害者手帳交付件数(万対)は全国平均が20.0なのに対して、滋賀県は13.2で全国42位です。この点では精神障害者福祉施策が遅れているとも読めます。

◆手帳によるサービスは、JR運賃の減免など、他障害とは大幅な格差があります。また障害者雇用率の算定対象外でしたので就労支援がなかなかかどりませんでした。しかし障害者雇用促進法が近く改正され、精神障害者手帳への写真貼付を条件に障害者効用率に精神障害者も組み入れられそうです。

◆障害間格差をねばり強く埋めていくこともノーマライゼーションへ向けた課題の一つだと思います。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

## 会員数

平成16年8月1日現在

一般会員	個人会員	244名
	団体会員	42団体
賛助会員	個人会員	12名
	団体会員	11団体